



LAND ROVER **RANGE ROVER**

人生を変える 孤高の4×4

本格クロカンながら高級サルーンの上質感を持つ世界で唯一のクルマとして生まれたレンジローバー。世代が変わっても、また親会社が変わってもポリシーを曲げずに進化し続けてきた希有な存在だ

文/田端邦彦



四輪独立懸架であっても、サストローク量はご覧の通り。リジッドアクスルの4×4に負けない悪路走破性を備えている。



レザーとウッド、アルミパネルを巧みに組み合わせて、ヨットを思わせる贅沢なインテリアを実現した3代目レンジローバー。スクエアな荷室など利便性の高さも魅力。



マニュアルモード付きの5速AT。もちろん副変速機も備えている。ジャガー製V8では6速になった。

2005年以降のモデルではエンジンが変更され、4.2リッターV8スーパーチャージドが設定された。



左が前期のBMW製V8で、右が変更後のジャガー製V8。同じ4.4リッターNAでも、最高出力は前者が286PS、後者が306PS。だがBMW製ユニットの方がより低い回転数で最大トルクを発生する。



現行モデルになってからも絶え間なく進化

多くのオフローダーが「いつか乗ってみたい憧れの4×4」として、その名を挙げるレンジローバー。ランドローバーのフラッグシップモデルとして、約40年にわたり憧れの存在であり続けてきた。

認定中古車の対象となる3代目・現行モデルがデビューしたのは2002年。初代譲りの高いオフロード性能を持ちながらも、高級感の演出は少々控えめだった2代目に対し、誰が見ても分かる高級感、そして従来型を大きく上回る快適性を実現したモデルだ。サスペンションはそれまでの前後リジッドから四輪独立懸架へ、ボディーもモノコック構造と

なったが、電子制御エアサスによる車高調整機構、DSCなどのトラクションデバイスを多用することによって、先代にも劣らない悪路走破性を得ている。

3代目のデビュー時、ランドローバー・ブランドは既にフォード・グループ傘下(現在はタタ・モータース傘下)となっていたが、その開発はBMW傘下時代にスタートしており、シャーシーやエンジンにはBMWの影響が少なからずある。当初はBMW製4.4リッターV8を搭載していたが、2005年7月にエンジンをジャガー製へ変更。4.4リッターV8および4.2リッターV8スーパーチャージドというラインナップとなった。この変更を境に大きく、

前期モデル、中期モデルと分けることができるが、それ以外にも細かな変更が毎年行われている。例えば2004年末にはタッチスクリーン式DVDナビが標準となり、ハーマン/カードン製高級オーディオを装備。また2007年7月には先にディスカバリー3に搭載された先進的なオフローディングシステム「トレインレスポンス」をレンジローバーにも採用し、さらにフロントシートにクーラー機能が付くなど、快適性を向上させている。

なお、現在は車名を「レンジローバーヴォーグ」に変更、エンジンも5リッターV8、5リッターV8スーパーチャージドというラインナップとなっている。

この車種の認定中古車物件を探す